



一般社団法人全国信用金庫協会
〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7

2023年5月19日

第26回「信用金庫社会貢献賞」の受賞活動決まる！
—上田市スマートシティ化計画の推進支援—
上田信用金庫（長野県）が会長賞に

一般社団法人全国信用金庫協会

全国信用金庫協会（会長：御室 健一郎）が実施している、信用金庫業界の顕彰制度第26回「信用金庫社会貢献賞」の受賞信用金庫、個人賞受賞者がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

第26回「信用金庫社会貢献賞」受賞活動

賞の種類	信用金庫名（都道府県）	受賞活動名
会長賞	上田信用金庫（長野県）	上田市スマートシティ化計画の推進支援
Face to Face賞	東栄信用金庫（東京都）	創業塾開催及び事業成長への伴走支援
	愛知信用金庫（愛知県）	認知症の人にやさしいまちづくり
	呉信用金庫（広島県）	くれしんありがとうの手紙
個人賞	青木信用金庫（埼玉県） おおくら しずえ 大倉 静江 氏	地域の方々を癒す「コスモス畑」の整備
	碧海信用金庫（愛知県） いちのせ まさゆき 一ノ瀬 将之 氏	宮廷装束と衣紋の伝統継承と普及活動
	コザ信用金庫（沖縄県） おおわん みつる 大湾 満 氏	沖縄の伝統芸能の保存伝承と普及発展活動
地域活性化しんきん 運動・優秀賞	長野信用金庫（長野県）	市町村連携「しんみせ応援プロジェクト」
	高松信用金庫（香川県）	女性への伴走型起業支援「キャリスタ塾」

本賞は、地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫が、様々な分野で地域貢献・社会貢献活動を実践している真摯な姿を多くの方々に知っていただくとともに、地域における存在価値を一層高めていくことを目的に、1997年に創設いたしました。このような、地域に根ざした永年にわたる信用金庫の地道な活動に光を当て、これを顕彰することは大きな意義があると考えております。

今回は、昨年10月から12月までの募集期間に、162信用金庫・4関係団体から618の応募がありました。その活動内容は多岐にわたっており、環境保全や社会福祉、金融教育支援、高齢化社会への対応のほか、災害からの復興支援、地域活性化への取り組み、次世代経営者の育成、取引先の販路拡大策など、どれも地域に根ざした信用金庫の不断の努力と叡智を結集したものとなっています。選考委員による厳正な審査の結果、会長賞をはじめとする受賞6信用金庫、個人賞受賞3名の活動が決定いたしました。

<参考> 第26回「信用金庫社会貢献賞」応募状況

地区別応募状況

地区名	金庫・団体数	応募件数
北海道	16	58
東北	15	28
関東	32	112
東京	13	56
北陸	6	16
東海	25	133
近畿	23	129
中国	12	36
四国	4	8
九州北部	6	19
南九州	10	18
団体	4	5
合計	166	618

活動分野別応募状況

活動分野	応募件数
地域社会活動	429
スポーツ	82
社会福祉	16
芸術・文化	31
教育	20
環境	28
災害救援	6
史跡・伝統文化保存	6
合計	618

本件についてのお問合せは、全国信用金庫協会 広報部 齊藤、今林、鈴木(拓)
(TEL.03-3517-5722 FAX.03-3517-5792)までお願いいたします。

◆第26回「信用金庫社会貢献賞」の選考総評と受賞活動の概要

1. 選考総評

「継続は力」を顧みる～日常と非日常の狭間で～

選考委員 村本 孜 氏（成城大学 名誉教授）

信用金庫社会貢献賞は早いもので4半世紀の歴史を持つ。多くの信用金庫にブロンズ像が飾られていることはこの賞の創設に関わった者として^{まこと}嬉しむ。毎回、多くの応募資料を作成くださる信用金庫の関係者に感謝したい。今回も166金庫・団体、618件という前年を上回る応募があった。選考委員会に諮るため、絞り込み作業・準備作業に当たられた担当部署に敬意を表したい。

個人的には社会貢献賞があまねく254の信用金庫に行き渡ることを念じており、今年も初めての受賞が多くあったことは喜ばしい。

コロナ禍が始まって3年有余が経過している中、全国の信用金庫が地元へ貢献するユニークな案件も多かった。全国で国の制度を活用した支援のほか、独自の対応・支援もあり工夫されている。会長賞に輝いた上田信用金庫の取り組みは、地元企業が開発したQRコード決済システム（チケットQR）を低コストで活用でき、交通系決済から消費関連にも展開した地域限定電子マネーとでもいうべき試みで、同金庫は上田市のスマートシティ化推進の中核となっている。この試みは内閣府特命担当大臣（地方創生担当）の表彰を受けている。「あるを尽くす[※]」という試みで、今後の展開に期待したい。[※]長野県の方言で「今持てる力を出し切ろう」の意味。

Face to Face賞の取り組みはいずれも長期にわたり、東栄信用金庫の創業塾はその創業率と事業継続率（100%）の高さが評価され、その背後にあるきめ細かい伴走支援等に支持が高かった。認知症サポーター制度に積極参加し成果を上げている愛知信用金庫の活動も高く評価され、地方創生担当大臣の表彰候補にもなった事案であった。呉信用金庫のありがたいの手紙は2007年6月15日の「信用金庫の日」の全国イベントとして開始された事業を独自に承継し、15年以上の活動歴を持つ。中学生を対象に「ありがとう」を伝えたい人に手紙を書いてもらい、選考の上、優秀賞・努力賞を決定し、文集にするもので、毎年1,000点以上の応募がある。

個人賞は、いずれも活動歴が長く、甲乙を付け難い活動内容であったが、重要無形文化財保持者、宮廷装束の着装技術の伝承という文化的に重要な活動、そして日ごろからコスモス畑の整備とメッセージ看板（伝言板）を用いたコミュニケーションによる活動が多く支持を得た。特別なものだけでなく、日常性も印象深いものだった。

地域活性化しんきん運動・優秀賞も地方創生担当大臣の表彰を受けた長野信用金庫の「しんみせ応援プロジェクト」（創業支援）、高松信用金庫の女性の起業支援活動が高く評価された。この他にも地域の再生エネルギー活動など注目すべき活動もあり、甲乙を付け難い活動ばかりであった。

選考委員会は議論の収束までかなりの時間を要し、それだけ受賞に値する活動が多かったといえる。多くの選考委員が支持した活動でもう少しの熟成を期待したいという活動、類似の活動で僅かな差で受賞に届かなかったものもあり、今後熟成・ブラッシュアップの上、再度応募されることを期待したい。

毎回書かせていただいているが、個人賞は活動歴も長く、評価も高い活動が多いので、引き続き応募されることを期待したい。地域バランスや受賞歴などから惜しくも今回の受賞に到らなかった活動もあるからである。

コロナ禍も一服感があり、このまま終息する状況とも言え、3年ぶりに日常が戻りつつある。選考委員会も3年ぶりにリアルでの開催となったが、まさにオンラインとは異なる侃々諤々の議論がなされて、多くの実り多い知見が開陳され、大変有意義であった。

この賞は全国信用金庫協会の1990年代初めに行われた「信用金庫長期ビジョン研究会」の提言に基づいて創設された。信用金庫の本業だけでなく、さまざまな形で長く地域へ貢献している活動を顕彰しようという趣旨で、全国のあまねく信用金庫に賞が届くことを期待されていた。25年の歴史は幾つかの改善を迫っているが、そもそもの趣旨を生かしつつ、新たな発展を期していきたい。

2. 受賞活動の概要

【会長賞】

上田信用金庫（長野県）／上田市スマートシティ化計画の推進支援

上田信用金庫は2016年、長野県上田市（以下「市」）と上田商工会議所（以下「商工会議所」）と連携して、中小企業の生産性や経営力の向上を支援し、地域産業力の強化を図り地域活性化につなげるため、「上田市キャラバン隊（ビジネスサポートチーム）」を立ち上げた。そこへ、当金庫取引先の有限会社和晃（以下「当社」）から独自開発のQRコード決済システム（以下「チケットQR」）の活用方法について相談があった。当金庫で調査したところそのシステムは特許を取得した高度な技術であり、さらに低コストでさまざまな決済サービスに対応できることから、市が推進する「スマートシティ化推進計画」の中核技術として活用可能と判断できた。

2020年9月、鉄道やバスなどの地域公共交通の事務効率化や顧客利便性の向上を目指し、当金庫、当社、市、商工会議所、上田電鉄、上田バスをコアメンバーとして「上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクト」を立ち上げた。2021年10月、地元私鉄や市内のほぼ全てのバス路線にチケットQRを導入。現在はタクシーへの導入を進めている。なお、チケットQR導入には、長野県（以下「県」）や国の補助金を充てるなどして、交通事業者の費用負担軽減を図っている。

2021年12月、利用者が市内の飲食店、小売店などでチケットQRを使用して買い物をすると割引（プレミアム率20%）が受けられる市の消費喚起応援事業「がんばろう上田！チケットQR」を開催（2回目は2022年9月、3回目は2023年2月実施）。応援事業の実施効果により2022年11月時点でダウンロード数が11万件を超えた。その後、近隣の市町村でもチケットQRを用いた消費喚起事業が実施され、社会実装に向けて広がりを見せている。

本活動は、2021年度の地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例」に認定され、地方創生担当大臣から表彰を受けた。

【Face to Face 賞】

東榮信用金庫（東京都）／創業塾開催及び事業成長への伴走支援

東榮信用金庫は本店がある東京都葛飾区と提携し、起業を目指す人々の支援を目的とした「かつしか創業塾」を2016年11月に立ち上げた。その後、江戸川区で「とうえい江戸川創業塾」を、江東区で「こうとう創業塾」を立ち上げ、2023年3月末現在で合計225人（男性141人、女性84人）の卒業生を輩出し、このうち132人が創業を果たした。

開業率は国の目標が10%であるのに対し、創業塾（以下「塾」）では57%超と大幅に上回っている。また、創業後の事業継続率は100%となっている。これらの実績により、全国の信用金庫からの問い合わせも数多く、実際に複数の信金や青色申告会などが視察に訪れている。塾の特徴は手厚い支援にある。創業後も卒業生を訪問し支援を継続。卒業生全体を組織化し、情報交換しやすい体制を整え、当金庫職員が頻繁に卒業生を訪問し、創業に向けたさまざまな悩みに対応している。

具体的には、①創業に向けた店舗探し、②助成金や補助金の申請、③販路開拓、④売上確保、⑤ホームページ作成などである。また、卒業生同士のネットワークから、タウン誌の発刊や企業のPR動画制作といった、数多くの新たなビジネスも誕生している。さらに、東京新聞や広報かつしか、テレビ局、FMラジオ局を通して卒業生にPRの機会を設けることで売上の増加を支援している。

また、「トコトンおせっかい付き」と銘打ち、当金庫との取引有無を問わず、起業を目指す人や創業間もない事業者を徹底的に支援し、起業家とともに地域活性化も目指している。

2022年12月には、地元商業高校に初めて寄付講座を提供。卒業生の女性起業家2人が登壇し、生徒たちに創業の経験談を披露して創業の魅力を伝えるとともに、イメージアップに努めた。なお、当塾卒業生への当金庫の融資額実績（2023年3月末）は、65件、約4億3700万円となっている。現在、営業エリアである千葉県浦安市での塾の開催を目指している。

【Face to Face 賞】

愛知信用金庫（愛知県）／認知症の人にやさしいまちづくり

愛知信用金庫は2017年、当金庫職員が認知症キャラバン・メイト講習を受講し資格を取得後、大学などで認知症サポーター養成講座（以下「講座」）の講師を務めた。これをきっかけに愛知県（以下「県」）の「認知症の人にやさしい企業サポーター養成事業」の作業部会メンバーに選出され、2018年「ONEアクション研修」を完成させ、県高齢福祉課と協働し、県内企業等への普及活動を行っている。

2021年1月、名古屋市（以下「市」）天白区「認知症の人にもやさしい店や事業所」理解促進事業のワーキンググループに参加。

2月、「金融取引の代理等に関する考え方および銀行と地方公共団体・社会福祉関係機関等との連携強化に関する考え方について」が全銀協から公表され、認知症を患い認知判断能力が低下した顧客への理解が金融業界全体の課題であると再認識した。

5月、東海労働金庫から認知症対応の相談を受け、講座を開催。東海労働金庫職員に認知症への理解を浸透させるため、当金庫職員が講師を務めた。

7月以降順次、市中区の地域包括支援センターと連携し、地域の企業、学校、住民を対象に講座を開催した（信金中央金庫、いちい信用金庫、愛知県信用保証協会、日本政策金融公庫、郵便局、資生堂ジャパン、愛知県立大学、市内図書館で開催）。

2021年6月、第22回日本認知症ケア学会の取組発表で市中区の企業代表として、2022年11月、認知症の人の生活を深く理解した上でニーズを踏まえた製品・サービスの開発を目指すため、県モデル事業に唯一金融機関としてそれぞれ参加した。

これらの取り組みは外部機関から高い評価を受けており、2019年2月、全国キャラバン・メイト連絡協議会より「地域の実情を熟知し、自治体との協力基盤をもつ金融機関の挑戦」として優良活動賞を受賞し、11月には、全国防犯CSR推進事務局から講座を活用した特殊詐欺未然防止の取り組みにより、防犯CSR実践企業として表彰されている。

【Face to Face 賞】

呉信用金庫（広島県）／くれしんありがとうの手紙

呉信用金庫は2007年6月15日の「信用金庫の日」から全国イベントとして開始した「ありがとうの手紙」終了後も、「くれしんありがとうの手紙」として中学生を対象にした当金庫独自イベントに替えて続けてきた。多感な中学生に「ありがとう」という感謝の窓から自分の内と外を眺めてもらう機会になれば、との思いからであった。

企画趣旨は「あなたが伝えていない今あなたが一番伝えたい“ありがとう”を伝えよう」をテーマに、中学生へ今一番“ありがとう”を伝えたい人へ、照れくさくて、言いたいのと言えないで、心の中にしまったままの“ありがとう”の気持ちを800字以上1,200字以内の手紙にして応募してもらうというもの。応募資格は、呉市、東広島市、三原市、竹原市、江田島市、安芸郡、豊田郡にある中学校の生徒。

選考は一次、二次、最終選考の3回行い、優秀賞10点、努力賞40点を決定する。優秀賞、努力賞には賞状および記念品を贈呈。表彰式は、優秀賞10人の生徒・教諭および保護者、呉市教育委員会・広島文化学園大学・呉工業高等専門学校を選考委員、当金庫より関係者らが出席し、当金庫本店で行っている。

また手作りの文集を作成し、優秀賞、努力賞の作品を掲載し、文集は各学校を通じて応募者全員に贈呈するとともに、当金庫の各営業店ロビーにも設置し、閲覧できる。

応募総数は回を追うごとに増えており、2007年時347点（10校）であった応募総数が、2019年には2,213点（48校）と、12年間で約6倍にもなった。新型コロナウイルス感染予防のため、学校への登校が制限されたこともあり、その後やや応募数は減少したが、2022年には1,643点（35校）もの作品の応募があった。2007年からのべ20,142点もの作品が寄せられている。

受賞式の内容や優秀賞受賞者の名前は地元新聞などにも掲載され、地域に根付いたイベントとして認知されている。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

長野信用金庫（長野県）／市町村連携「しんみせ応援プロジェクト」

長野市中心市街地は毎年一定の創業者がいるものの、早期廃業が多く事務所や倉庫の空きが目立ち、地域活性化には中心市街地の空洞化を食い止める必要があった。そこで長野信用金庫は2018年4月、日本財団「わがまち基金」の助成金を活用し、長野市中心市街地での創業案件に限定した市街地活性化事業「しんみせ応援プロジェクト」をスタートした（同助成金の終了後の2021年度からは当金庫独自の事業として継続）。

その後、当金庫営業エリアである長野県北信地区全域での創業支援体制を強化すべく、当金庫と地方創生に係る連携協定を締結する北信地区全15市町村で構成する「北信まちづくりプラットフォーム」の連携事業として、同プロジェクトの対象エリアも同地区に広げた。

同プロジェクトは、①しんみせチャレンジ、②創業カレッジ、③アテンド訪問、④NAGANOまちづくり応援ファンドのスキームから構成されている。

①は、創業者の事業実現と事業継続率向上を目指す半年にわたるプログラム（書類選考、創業カレッジ、プレゼン選考）で、持続可能な事業と認定された事業者にスタートアップ応援金を交付する。②では、創業者や専門家から事業継続の実体験やノウハウを学ぶ。③は当金庫専担者が連携市町村実務担当者とともに創業者にモニタリングを行う「アテンド活動」を実施し、創業後の継続的なサポートを行う。④は、創業者の資金調達手段を拡充するため、当金庫と民間都市開発推進機構との共同出資により設立した。

①は5年間で34人に応援金を交付。交付者の事業継続率は100%（参加者累計135人の事業継続率は83.7%、2022年5月現在）であり、④は2案件、1,050万円の投資実績となっている（2023年3月現在）。

この活動は2021年3月、地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例」に選定され、地方創生大臣から表彰を受けた。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

高松信用金庫（香川県）／女性への伴走型起業支援「キャリスタ塾」

高松信用金庫は、2015年から「起業を検討している女性の悩み・不安を解決できる場所をつくりたい」「地域で活躍する女性起業家の体験実例などが聞ける場所をつくりたい」「女性起業家ネットワークを広げられる場所をつくりたい」という思いから、女性起業家の学生服リユースショップさくらや代表 馬場加奈子氏と活動を始めた。起業を検討している、または起業して間もない女性を対象に「Sanuki Woman キャリスタ塾」（以下「塾」）を開催。事業計画書の策定などを指導する一般的な創業塾ではなく、その一歩手前の位置付け——たとえば、創業の意志はあるが方向性が不透明、何から始めればよいかわからないなどを支援すること——から展開した。

女性起業家は、女性ならではの発想や事業に対する熱い思いを持っているものの、「それを対外的にうまく伝えられない」「誰に相談したらよいかわからない」といった悩みを持っているケースが多い。そこで、塾でのグループディスカッションやプレゼン、自身の実体験を基にした講師からの助言などを通して、まずは自分の夢や事業への想いを整理し、それを「カタチ」に表現できるよう後押しすることを主目的に活動を実施している。

女性を対象としているということで、親しみが持てるよう、塾の準備・当日運営などは当金庫女性職員を中心に行い、子ども連れの塾生のために、講義中は女性職員が子どもの世話を受け持つ。塾修了後も、事業計画書の策定支援など継続した支援・関係構築を行うために、原則エリア店舗の営業部店長も塾に参加し、意見交換や交流を行っている。2015年の開始から約7年間で25回塾を開催し、のべ155人が参加。卒業生のうち23人が飲食業や美容業など、さまざまな業種で起業している。

本活動は2019年2月、中小企業庁「平成30年度創業機運醸成賞」を受賞。また2021年3月、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局より地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例」として選定され、地方創生担当大臣から表彰を受けた。

【個人賞】

青木信用金庫（埼玉県）大倉 静江 氏／地域の方々を癒す「コスモス畑」の整備

大倉氏は2009年、ご自宅の近所の方がコスモスをたくさん咲かせているのに触発され、分けていただいた種を自身の畑にまいて育成。秋には一面に開花させるまでになった。

以来、毎年、冬に種子を集めては盛夏のなかで種まき作業を行うことを続けてきた。そして季節が秋になると満開の花が風に揺られ、通りがかる人々の目を楽しませるようになった。近所だけではなく、遠くからバスで訪れる方々もいるという。「一摘み、どうぞ」との看板も設置し、希望者にお持ち帰りいただいてもいる。

メッセージを記した看板を立てると、来訪者からの感謝の言葉も寄せられ、コスモスを通じたコミュニケーションの輪が広がり、「住みよいふるさとづくり」に貢献している。こうした活動が評価され、2022年11月14日に開催された「県民の日記念式典」で、「彩の国コミュニティ協議会」（会長＝大野元裕埼玉県知事）より「シラコバト賞」が授与された。

近年は、8月初旬にコスモスとヒマワリの種を同時にまくことで、夏のヒマワリと秋のコスモスを一緒に咲かせており、昨年はロシアのウクライナ侵攻が一日も早く終わることを願い、ウクライナ国花のヒマワリやキバナコスモスを多めに育て平和の実現を祈っている。

【個人賞】

碧海信用金庫（愛知県）一ノ瀬 將之 氏／宮廷装束と衣紋の伝統継承と普及活動

一ノ瀬氏は2019（令和元）年、今上天皇の即位の礼のとき、儀式の奉仕者に宮廷装束を着付ける「衣紋者」を務めた。古来の儀式や礼法に通暁しており、十二単に代表される宮廷装束やその着装技術を普及し、次世代へと継承する活動を行っている。

我が国の宮廷装束は今から約1000年前に生まれたといわれ、今日においても皇室、神社の神事だけではなく、例えば婚礼・七五三など一般の通過儀礼でも用いられている。こうした「世界最古の服飾文化」を着付ける技術（＝衣紋）もまた、800年に及ぶ伝統を持っている。

しかしながら、その認知度は決して高いとはいえない。

そこで、一ノ瀬氏は伝統の継承活動が必要だと考えるに至り、十二単などの宮廷装束の着装体験や講演を、学校や地域の公共施設などで実施してきた。特に、多感な若い世代への普及に注力し、歴史文化に興味を抱き、平安時代からの服飾文化を身近に感じるきっかけ作りになっている。

その一方、2013年の伊勢神宮式年遷宮、冒頭に記した即位の礼のほか、同年の大嘗祭で衣紋方を務めるなど、国家的な伝統行事に際して技術奉仕を行い、幅広く活動を続けている。

【個人賞】

コザ信用金庫（沖縄県）大湾 満 氏／沖縄の伝統芸能の保存伝承と普及発展活動

大湾氏は、信金マンとして地元経済を支えるかたわら、^{おおわん みつる}大湾三瑠という芸名で、「組踊」や琉球舞踊、琉球歌劇の保存伝承・継承・普及・発展・啓蒙活動に力を注いでいる。

「組踊」は琉球王国が清国使節を歓待するため、江戸時代中期の1719年に初演された音楽劇。音楽と演技、舞踊、台詞が展開される。その内容は、沖縄の歴史や伝説に基づいたものとなっている。

「組踊」は、芸術上価値が高いもので、芸能史上でも重要であり、地方的な特色が顕著であるということなどで、1972年に国の重要無形文化財に指定されている。そして2019年、大湾氏はその保持者の認定を受けた。

大湾氏は沖縄の伝統芸能を継承する一家に生まれ、5歳のときから琉球舞踊を学ぶようになったという。2015、2020年には、琉球舞踊の独演会「究道無限」を沖縄県浦添市にある「国立劇場おきなわ」で開催し、好評を博している。

大湾氏が勤務するコザ信用金庫では、毎年作成し広く配布するカレンダーに琉球舞踊の写真を使用している。2022年には、大湾氏が踊る琉球舞踊「高平良万歳」^{たかでーら まんざい}の写真正が使用された。伝統芸能の芸能人としても信金マンとしても、大湾氏には多くのファンがいる。

以 上

◆第26回「信用金庫社会貢献賞」について

【創設目的】 地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫の原点を踏まえ、地域の発展に貢献する信用金庫の真摯な姿を広くアピールし、お客様や地域の信頼を揺るぎないものとするとともに、地域での存在感を一段と高めていく。

【対象内容】 信用金庫にふさわしい地域に根ざした活動で、地域振興、社会福祉、芸術・文化支援、史跡・伝統文化保存、交通安全、教育支援、留学生・在日外国人支援、環境保全、各種ボランティア等の地域社会活動および災害救援活動等の分野とする。

【表彰対象】 ・信用金庫および信用金庫役職員（個人・グループ）
・地区・府県信用金庫協会、中央団体

【選考基準】 活動の継続性（3年以上継続された活動であること。ただし、Face to Face賞の応募活動のうち、その特性から活動期間が必ずしも長期にわたらないもの、地域活性化しんきん運動・優秀賞は除く）、活動目的の社会的意義、地域との一体性（地域に溶け込んだ地域の方々と一体となった取り組み）、活動の困難度、援助を受ける側の評価、感謝の度合い、関係者または地域社会に与えた影響、活動内容・方法のユニークさ、などを総合的に判断する。

【応募期間】 2022年10月1日から12月30日まで

【選考委員】 ※所属等は2023年3月現在、敬称略

石田 徹	日本商工会議所 専務理事
島田 京子	元 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 専務理事
清水 肇子	公益財団法人さわやか福祉財団 理事長
高橋 陽子	公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長
野坂 雅一	総務省 地方財政審議会 委員
村本 孜	成城大学 名誉教授
御室 健一郎	一般社団法人全国信用金庫協会 会長
須藤 浩	信金中央金庫 副理事長
川本 恭治	一般社団法人全国信用金庫協会 広報委員会 委員長

【各賞の内容】

会長賞・・・活動の社会的意義、地域との一体感、地域社会に与えた影響等を総合的に判断し、Face to Face賞、地域活性化しんきん運動・優秀賞の受賞候補活動の中から最も優れた活動に対し与えるものとする。

Face to Face賞・・・地域金融機関にふさわしい、地域社会に溶け込んだ、地域の方々の一体感を深めることに寄与した活動および地域金融機関の社会貢献活動として今後の取り組みが期待され、奨励される活動、ならびにその特性から活動期間が必ずしも長期にわたらないものであっても、環境・社会問題への取り組み、災害復旧支援など関係者や地域社会に大きく貢献した活動等に対して与えるものとする。

地域活性化しんきん運動・優秀賞・・・中小企業のライフサイクルや経営課題等に応じた支援活動や地域経済の面的な活性化に資する支援活動のうち、各々の地域社会の実情と信用金庫の特性に合わせたユニークで、他の範となる活動に対して与えるものとする。

個人賞・・・個人あるいはグループの取り組みで、信用金庫職員として他の範となる活動に対して与えるものとする。